令和８年度　第４回梅坪台地域会議　会議録

■　**日　時**　　令和８年 10 月 13 日（火）　午後７時～午後８時 30 分
■　**場　所**　　梅坪台交流館　１階　中会議室
■　**出席者**

＜委　員＞	安部　隆一	岩崎　洋平	岩松　初男
	木村　公紀	小泉　修	杉山　健章
	髙山　浩	鎮西　和也	三岡　英隆

＜交流館＞　杉山　浩子（梅坪台交流館　館長）
＜事務局＞　塚田　征弘（地域交流課　副課長）
　　槌井　功二（地域交流課　担当長）　佐野 綾香（地域交流課　書記）

■　**内　容**

1　開会
2　会長あいさつ
3　地区コミュニティ会議報告
4　「目指す地域の姿」の具体化に向けた協議
5　地域会議だよりの作成について
6　わくわく事業紹介
7　連絡事項

■　**議事内容（要約）**

3　地区コミュニティ会議報告

杉山会長から 10 月 3 日に開催されたふれあいまつり実行委員会について以下のとおり報告があった。

- 来賓への案内及び自治区からの応援者の配置について確認した。
- 前日に中央公園へ設置するテント等の盗難対策として、警察や自主防犯活動団体への協力依頼について検討した。
- じゃんけん大会は前年と同様の勝ち抜き方式で実施し、景品は企業協賛により準備する。
- 雨天時の対応については、雨が予想される場合は前日に実施の可否を判断し、前日が雨天の場合は当日早朝に判断する。

４　「目指す地域の姿」の具体化に向けた協議

事務局から、地域のつながりの強化に向けた今後の協議の進め方について説明した後、委員が持ち寄った「つながりを感じた出来事」について、それぞれ発表し、意見交換を行った。

〈主な意見〉

■日常的な地域交流に関する意見

・ごみ出しの際のあいさつやごみステーションの共同整備、回覧板の手渡しなど、日常生活の中で近隣住民と顔を合わせ会話する機会が地域のつながりにつながっている。
・回覧板は情報伝達だけでなく住民同士が直接顔を合わせる機会となっており、デジタル化が進んでも手渡しによる交流を大切にしたい。
・犬の散歩やウォーキング、近隣住民との日常的な会話、子どもとのあいさつなど、日々の小さなコミュニケーションが地域のつながりを育んでいる。
・登下校時の見守り活動などを通じて、子どもと地域住民が互いに顔や名前を覚え、名前を呼び合える関係や信頼関係が築かれている。
・近所との物の貸し借りやおすそ分けなどの助け合いの関係が築かれている。
・子どもの頃、お年寄りに叱られることが多かった。叱ってくれるお年寄りもいてほしい。
・自分の地元では、駅前の商店街が居場所で、周りの大人が見守ってくれていた。
・強いつながりだけでなく、散歩やあいさつ、近所付き合いなどによる緩やかなつながりも地域にとって重要。

■地域活動・役員活動により生まれるつながりに関する意見

・自治区の組長や役員等を経験したことが地域とのつながりの出発点となり、顔見知りや仲間が増えた。
・有志会による駅前清掃や草刈り、民生委員による家庭訪問、地域会議への参加などを通じて、普段接する機会の少ない住民や高齢者と交流する機会になっている。
・環境美化活動を通じて、近隣住民と顔を合わせ交流する機会になっている。
・敬老会の案内を手渡しするため地域を回ったことや、祭りの祝儀集めなどを通じて、これまで接点のなかった住民と知り合う機会になった。
・地域活動に子どもを連れて参加することで、子どもと地域住民との交流や世代間交流が生まれている。
・PTA や見守りボランティアによる登下校時の見守り活動を通じて、子どもや

保護者とのつながりが生まれている。
・子どもの居場所づくりや子ども食堂では、多くのボランティアや地域住民が参加し、工作、読み聞かせ、調理など、それぞれの特技を活かした活動を通じて、子どもや保護者、地域住民同士の交流が生まれている。
・ボランティア団体では新たな会員が加わり、SNS 運営やイベント企画など、それぞれの得意分野を活かして活動しており、地域には力を貸したい人材が多く存在する。
・地域の会議や打合せの議論を通じて相手の考え方を知ることができる。
・区長になると、区民から様々な困りごとの相談が寄せられる。対応は大変だが、区民と直接話をする機会になっている。
・地域活動への参加には「一度関わると抜けられなくなるのではないか」という不安もあり、気軽に参加できる小さな役割や単発参加の仕組みが必要。

■地域行事・イベントにより生まれるつながりに関する意見
・高齢者クラブによる発表活動やスポーツ活動、敬老会、高齢者と小学生との交流会などが、高齢者同士や子どもを含めた多世代交流の機会となっている。
・地域の祭りでは、大学生による子ども向け企画なども行われており、大学生、子ども、その保護者を含む多世代の交流が生まれている。
・子ども会活動や学校の体験活動、農業体験、職場体験などが、地域との関わりや交流の機会となっている。
・地域行事への参加を通じて、普段接点のない住民とも交流が生まれており、行事の場は声を掛けやすく、新たなつながりのきっかけとなっている。
・子どもの頃は、お祭りや行事を中心に強いつながりがあった。個人的には緩やかなつながりを求めているので、つながりが強すぎると感じることもあった。
・葬儀や慰霊祭などで地域住民が集まり、故人をしのぶことも人とのつながりを感じる機会である。

■今後のつながりづくりに関する意見
・地域のつながりについては、自治区や高齢者クラブなどの既存組織を通じたつながりと、散歩やあいさつなどの日常的で緩やかなつながりに分けて整理できる。
・地域に関わりたいと考える人は多いものの、継続的な負担や役割への不安から参加をためらう人もいるため、「参加だけ」「今回だけの手伝い」といった柔軟な関わり方を受け入れることが重要。
・地域活動やサークル、イベントなどの情報を住民が得やすくすることが、参加やつながりづくりのきっかけになる。

・回覧板は地域の情報を届けるだけでなく、地域で行われている活動を知る機会にもなっており、情報共有の手段として重要である。

5　地域会議だよりの作成について

事務局から地域会議だより（案）を提示し、内容について協議を行った。その結果、委員からの意見を 10 月 20 日までに事務局へ提出し、その内容を反映して作成することとした。

また、令和８年度地域会議委員の紹介記事に掲載するため、集合写真を撮影した。

6　わくわく事業紹介

事務局から「上原グラウンド・ゴルフ」の活動内容について説明した。

■　**今後の予定**

令和８年度第５回梅坪台地域会議

11 月 10 日（火）午後７時 ～ 梅坪台交流館　中会議室にて